

添付資料1:

■奨学助成金募集概要

	現 高校1～2年生向け
募集期間	2023年7月6日(木)～11月26日(日)23:59
結果発表時期	2024年1月末頃
応募資格	<p>応募時点で日本国内の高等学校または高等専門学校に在籍し、以下の条件に当てはまる方</p> <ol style="list-style-type: none"> 以下のいずれかの方 <ol style="list-style-type: none"> 1-1.2023年4月時点で高等学校の1,2年生の方で、STEM(理系)分野への大学進学を検討しており、理系コース/理系科目を2024年度に選択予定・継続選択する方 1-2.2023年4月時点で高等専門学校の1,2年生の方 女性(性自認もしくは戸籍上の性別が女性)の方 過去に、本財団の奨学金・奨学助成金を受け取ったことのない方
支給金額	10万円 (2024年5月中旬以降にご本人名義の口座にお振込みします。)
採用人数	最大500名程度
応募方法	<p>下記URLにあるエントリーフォームよりオンライン応募 https://www.shinfdn.org/scholarship2023/requirements ※成績等の書類の提出は不要です。エントリーフォームのみで完結します。応募後の面接等はありません。</p>
選考方法	<ol style="list-style-type: none"> 財団事務局による予備選考 STEM(理系)分野に進むために奨学助成金を活用いただける方が抽選対象となるよう、エントリーフォームの情報をもとに、財団にて作成した必要性指標⁴による予備選考を行います。なお、予備選考の結果については非公開となります。 1を経て応募者多数の場合、抽選選考を行います。

⁴ 必要性指標とは、「STEM(理系)分野に進むために奨学助成金を活用いただける」ことの確認のために、下記のような観点から本財団にて作成したものです。
 ・希望されている学科や職業が、ジェンダーギャップが大きく女性活躍が望まれている分野かどうか
 ・社会的な困難や、経済的な困難の状況

■奨学生からのメッセージ(一部)

・奨学金を貰えたことで、塾の物理の講座を気兼ねなく受けることができました！
女子が少ない分野ですが、頑張ります。

・奨学金を活かして、自分が目指す理系分野へ挑戦するきっかけにもなると思います。また、新しい事を始めるきっかけにもなると思います。

・奨学金を活かしてパソコンを購入し、新しい事を始められたので、みなさんもぜひ活用してほしいと思います。

・奨学金によって、塾に通い始めました。希望の大学に進学できるように頑張ります。

添付資料2:

■教員向けSTEM(理系)進学支援イベントシリーズ概略

目的:

- ・STEM分野におけるジェンダーバイアスの軽減/意識啓発
- ・最新のSTEM教育情報(カリキュラム開発等含む)の提供
- ・STEM(理系)進学と関連した職業・キャリア情報の提供

対象者:

- ・STEM(理系)教育に関心を持っている教員の方
- ・中学校・高校の理系科目を担当されている教員の方
- ・進路選択のサポートをされている教員の方

初回イベントについて:

第一弾として、8月の第3週目に文理選択に関連した教員向けのオンラインイベントを企画しています。詳細は、7月下旬に公開予定です。

テーマ例:

1.ジェンダー平等教育:

テーマ:ジェンダーバイアスの意識啓発

STEM教育におけるジェンダーバイアスの影響と事例紹介、学校現場でのジェンダーバイアス認識のための演習とグループディスカッション。

2.STEM(理系)キャリアガイダンス:

テーマ:STEM(理系)キャリア選択支援

STEM分野での進学やキャリアの可能性や魅力の紹介、STEM分野での進路選択における社会的な偏見や固定観念、課題のディスカッション、社会で活躍しているSTEM女性リーダーのロールモデル紹介。

3.教材開発ワークショップ:

テーマ:デザイン思考を使った、学びの体験を重視した教材の開発

生徒の興味を引く実社会に根ざした科学や技術のテーマ等の調査、デザイン思考やPBL手法を用いた実践的な教材のグループでの開発。

4.STEM女性ロールモデル:

テーマ:STEM女性ロールモデルのキャリアストーリーの共有

STEM分野で活躍する女性ロールモデルから中高時代から現在に至るまでのストーリー共有、パネルディスカッションとQ&Aセッションで実際に直面した進路選択や学校での課題やその解決策、成功体験の共有。

5.女子×STEM教育カンファレンス:

テーマ:最新のSTEM教育トレンドの紹介、STEM教育に関する研究成果の発表

デジタル技術の進化や教育におけるSTEMの有効活用に関する国内外の事例/情報を提供、学校現場でのSTEM教育の研究成果発表や公開授業の実施、参加者同士や研究者とのディスカッション。

添付資料3:

■参考資料: 過去応募者データ抜粋

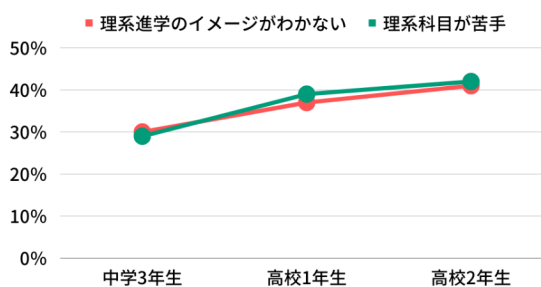
昨年度(2022年度)の奨学金の学年別、応募年度別の進学へのハードルを分析した結果、どの学年でも経済的負担が最も多く、次に理系科目が苦手・理系進学イメージが湧かないことがハードルとなっていました。特に、中3、高1、高2と学年が上がるにつれて「理系進学イメージが湧かない」、「理系科目が苦手」の割合が上がっていくことから、学校等教育機関の現場における、特に女子生徒に対する理系進学に関連した支援内容を手厚くする必要があることが推測されます。



2022年度奨学金応募者
(中3: 230人、高1: 941人、高2: 908人)

回答項目※	中3	高1	高2	中3	高1	高2
経済的負担	145	639	651	63%	68%	72%
理系進学イメージが湧かない	69	347	373	30%	37%	41%
理系科目が苦手	67	366	383	29%	39%	42%
周囲の理解がない	35	140	199	15%	15%	22%

学年が上がると女子生徒のSTEM(理系)への苦手意識が高まり、イメージが湧かなくなる→学校におけるさらなる支援が求められている。



2022年度財団の奨学金応募者の応募データから作成
対象者: 中3~高2 (中3: 230人、高1: 941人、高2: 908人)

※表の見方

「経済的負担」: 該当なし以外に回答したサンプル数

「理系進学イメージが湧かない」: 「親や周囲の身近な大人が理系学部出身ではなく、大学の理系学部への進学イメージがわきづらい」及び「親や周囲の身近な大人が大学に通っていたことがなく、大学進学イメージがわきづらい」に回答したサンプル数

「理系科目が苦手」: 「STEM(理系)分野に興味はあるが、数学が苦手である」及び「親や周囲の身近な大人が大学に通っていたことがなく、大学進学イメージがわきづらい」のサンプル数

「周囲の理解がない」: 「親や先生等周囲の大人から、希望する進路について、反対があったり努力を否定されていると感じるようなことがあった」、「親や先生等周囲の大人に、女性のSTEM(理系)進学について「就職イメージが湧かない」「就職に不安がある」と言われたことがあった」「親や先生等周囲の大人に、「女性は文系がよいのではないか」と言われたことがあった」のサンプル数